

コミュニティ・スクール制度化20周年記念フォーラム
パネルディスカッション登壇事例集

CSの熟議を基にした多様な地域住民による多様な地域学校協働活動の展開で地域コミュニティを創生!!!

基本情報

学校

榎葉町立あおぞらこども園・
榎葉小学校・榎葉中学校

学校運営協議会

榎葉町こども園・学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
教育委員
まちづくり地域団体職員
移住促進団体職員
福祉団体職員
大学生
大学教員
など 29名

会議回数

年間平均18回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名 (2名)

地域コーディネーター 1名 (0名)

地域学校協働本部

榎葉町地域学校協働センター

背景・取組概要

- ・避難指示解除後に帰町した住民同士や、帰町した住民とやむを得ず帰町を見合わせる住民、新しく移住・定住した住民によって築かれる**地域コミュニティの再構築の難しさ**が大きな課題となっていた。
- ・4年半の全町避難により、榎葉で生まれ育った子どもが少なく、**子どもと地域とのつながりが希薄**であり、地域人材だけでなく、自然環境や伝統、地域行事など、**あらゆる地域資源と子どもとを結びつけるきっかけ**が求められていた。
- 学校教育や社会教育など、**あらゆる教育活動と地域とを結びつけた多様な地域学校協働活動を通して、多くの地域住民の幅広い教育活動への参画を実現**するとともに、CSを通して地域や学校のニーズを的確かつタイムリーに把握し、協働活動に反映させていく仕組みを構築することで、教育を通じた**地域のネットワークを形成し、コミュニティの復興を促進**する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

CSを通して幅広い人々の意見を反映させるだけでなく、**だれもが町の教育について気軽に語り合う文化の創造**を目指し、活動テーマごとの部会を設置するとともに、小中学生らも参加した教育トークを開催している。それまで学校単独では実現できなかった徒歩・自転車通学の再開や、地域と学校が協働した防災授業の実施も実現でき、**教職員の負担軽減**にもつながった。また、英語活動に関しては、職員や指導体制なども含めた12年間の町のカリキュラム作成にもつながっている。

◆地域学校協働活動

地域参画型の放課後子供教室では、学校教育支援の一環で実施しているこども議会で採用されなかった子どもの意見などを基に、地域住民と連携協働し、特産品のゆずを使ったレシピを開発して、地域のレストランで販売したり、新たに地域の祭りを地域住民と共に企画して開催したり、地域施設をより良くするプロジェクトを立ち上げたりしている。**保護者やこども園児、中学生が参加することも多く、異世代交流に繋がったり、進学不安軽減にもつながっている**と評価されている。

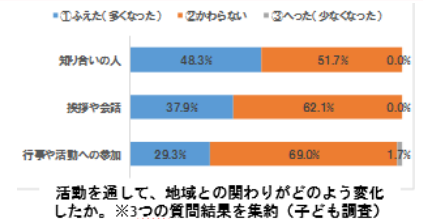
◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議委員の大半は、地域学校協働活動に参加している人材としており、**CSの熟議の結果を協働活動に反映させている**。また、小中学生の声を部会が吸い上げて、部会での熟議のテーマとし、さらに協議会の本テーブルの議題としてあげるという重層的な仕組みとすることで、**次年度の教育計画や協働活動に小中学生の意見も活かせるよう工夫**している。



成果・効果

- ◆**放課後子供教室に参加した大人は1年間でのべ600人以上**おり、そうしたネットワークが学校の総合的な学習などに活かされたり、学校の発展学習を放課後子供教室で地域住民が講師となって実施したりするなど、**地域と学校の協働連携が日常的になりつつある**。
- ◆地域の知り合いが増えたという子どもは48.3%、挨拶などするようになった割合も37.9%となり、さらに**保護者の3割程度も地域との関わりが強くなった**と回答している。



テーマ型コミュニティ・スクールによる「社会に開かれた教育課程」の実現

基本情報

学校

大阪府立富田林中学校
大阪府立富田林高等学校

学校運営協議会

大阪府立富田林中学校・高等学校
学校運営協議会

平成30年4月1日 設置

委員構成

- ・専門学校校長（元教育監）
- ・地域学校協働本部会長（NPO学びと育ち南河内ネットワーク）
- ・PTA会長
- ・大学教授
- ・社会教育委員
- ・弁護士
- ・SSH運営指導委員
- ・会社社長（同総会） 計8名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター6名（3名）

地域学校協働本部

NPO学びと育ち南河内ネットワーク

背景・取組概要

◆ ミッション達成のためのテーマ型コミュニティ・スクール

富田林高等学校は123年の歴史を通じて、大阪南河内の中核的な教育機関として、地域社会を支える多数のリーダーや世界で活躍する多くの人材を輩出してきた。この富田林高等学校を、新しい時代の教育課題に応える新タイプの公立学校とするためコミュニティ・スクールとするとともに中高一貫校に改変（平成29年）する必要があった。

めざすテーマ「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し国際社会に貢献できる人材（グローバル人材）の育成」に賛同いただける人材で構成する学校運営協議会を基盤とし、教育課程を社会に開き地域学校協働活動を推進することによりミッションを達成する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆ 学校運営協議会

中高一貫教育によりミッション達成を図ることから、学校運営協議会は中高一貫的な組織としている。ミッション達成のための具体的な教育の柱として「社会貢献意識の醸成」をベースとし「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題解決能力」を育成をめざした。

教育活動が社会のニーズにマッチし生徒のキャリア形成につながるよう期待を込めて設置当初より「探究学習（アントレプレナー型）」の開発に重点を置き、「教育内容」や産官学協働で教育を進めることができる「しくみ」について協議を重ねてきた。

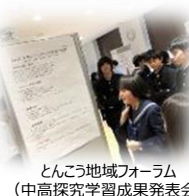
その他の協議課題としては○「探究学習」について○教育活動の推進と働き方改革○不登校課題に係るフリースクールとの協働○オンラインによる学びの保障○制服改訂○校則の見直し○部活動の外部移行○授業改善○グローバル教育などがある。

◆ 地域学校協働活動

企業コーディネーター、同窓会コーディネーター、地域コーディネーター（運営協議会委員、地域連携教職員等）の実働による、産官学協働の「探究学習」を実施（協働企業80、連携企業150）

◆ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会委員として地域学校協働本部会長が参画している。協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。不登校の課題解決のためのフリースクール運営や進路支援事業としての奨学金制度の設置、地域小学生対象の科学教室開催を協働で行っている。また、全国・地域教育機関（市町村立学校等）を対象に「授業改革DAY」を設け、運営協議会委員が講演・指導助言を行い地域協働で授業改善に取り組むプラットフォームの役割を果たしている。



とんこう地域フォーラム
(中高探究学習成果発表会)



コーディネーター会議



アントレプレナー型探究
中3学年発表会

成果・効果

◆ 学校運営協議会が教育活動（探究学習）に参画することで産官学協働による取組みが推進され学校と企業等がこれまで以上に協働するようになった。

◆ 探究学習への満足度（80%以上）、社会で活躍できる力の育成への満足度（90%以上）となり、社会貢献意識の醸成が進んだ。

	指標1				指標2			
	探究学習満足度				社会貢献意識、社会で活躍する力			
	生徒		保護者		生徒		保護者	
	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校
H29 (CS設置前年)		56		72		85		88
R5	85	83	88	86	91	93	95	90

※H29について、中学は1学年のみであることや年度途中の評価となるため未記載

島地で子どもの夢を叶えるプロジェクト

基本情報

学校

山口市立島地小学校

学校運営協議会

島地小学校学校運営協議会

平成23年4月1日設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者・PTA関係者
民生児童委員
保護司
社会福祉協議会
地域交流センター分館長
地域づくり協議会
地域おこしボランティア団体
元教員 など 13名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

徳地地域協育ネット

背景・取組概要

◆島地地域は少子高齢化・過疎化が進み、人口は減少し続け、学校は完全複式の3学級である。こうした地域であるからこそ、子ども達が地域に出て地域住民と活動することを通して地域のことを知り、**地域の未来を考え提案できる当事者意識や主体性の育成が重要**である。また、学校が地域の方々と地域の素材を生かした教育課程を編成し地域と協働して学習活動を展開することで、**地域住民の生活をより豊かで幸せで生き生きとしたものにするための「地域の熱量」を高める必要**がある。まさに、**地域のために地域と協働する学校づくりと学校を核として熱量を高める地域づくり**が求められている。

→ **「子どもが創る、もっともっとワクワクする学習活動」を掲げ、夢をもち周りの人に働きかけていく子どもと、熟議を通して、それを受け止め共に夢を実現していく地域を創る。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校運営協議会の中で熟議を4回実施し、子ども達が3回参加して自分達が島地のために取り組みたい夢について提案している。それを受け、学校運営協議会委員で熟議を行い、**夢の実現のための方策を決め、夢を具現化する仕組みとして機能している**。最近のテーマは、「島地の竹を使ってこんなことをしてみたい」「ふれあいボランティアでこんなところをきれいにしたい」「ふれあいの日のブースで地域を盛り上げるためにこんなことをやってみたい」「ホテルの会を開いて島地のホテルを増やしてもっと有名にしたい」等である。

◆地域学校協働活動（徳地地域協育ネット）

学校運営協議会の熟議で決まったことを**地域協育ネットの仕組みを使い、具現化している**。例えば、カヌー体験教室においてはトイレや水道設備の提供、乗艇場の設置、カヌーの運搬、除草作業などである。竹を使った活動では、タケノコ掘りの指導、竹の伐採・運び出しの支援、竹筏の試作、筏づくりの指導、竹灯笼の制作、和紙を使ったマール染め体験の広報、マスコミとの連携等である。こうした活動により、**子ども達の夢が叶うだけでなく、地域の素材のすばらしさの再発見につながっている**。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動（徳地地域協育ネット）の一体的実施

複数の学校運営協議会委員が地域協育ネットのメンバーであるために、**レスポンスよく、切れ目のない活動を展開**することができている。山口市観光コンベンション協会徳地支部や徳地地区内の他の団体と連携・協働することで、**今までになかった視点による活動やマスコミ等とのコラボレーションも実現**した。

また、徳地地域協育ネット協議会の熟議には、学校職員だけではなく、**子ども達も参加することでより一体感のある取組が実現**できている。



成果・効果

子ども達の夢が叶うことで、子ども達の**自己存在感や自己肯定感**が高まっている。直近2年間のアンケートによると「進んで学習に取り組むか」については、**79%から93%へ上昇**。「自分にはよいところがあると思うか」については、**78%から93%へ上昇**。「学校には楽しいことがある」については、**94%から100%へ上昇**。また、「島地のことが好き、島地のことを大切にしたいと思っているか」については、**89%から100%へ上昇**した。

子ども達が**「夢は叶う」「自分たちが未来を変えられる」という思いを持ち、新しい取組を自ら始めていることが一番の成果**である。さらに、学校運営協議会や地域学校協働活動(徳地地域協育ネット)のメンバーが**地域のことを再発見し、子どもと一緒に大人も学ぶことの楽しさに浸り、やりがいを感じている**ことも大きい。このやりがいが新しい地域づくり・新しい学校づくりの原動力となり、「**地域のために地域と協働する学校づくりと学校を核として熱量を高める地域づくり**」が**進んでいる実感**を児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員が得ている。